

1985年のイラン・イラク戦争の時に、トルコ航空機がテヘラン在住の日本人215名を救出した事を知り日本人は意外と少ないと思います。その時のトルコ航空機機長が日曜日の夜にお亡くなりになりました。今日のお昼、イスタンブール市内のモスクで葬儀がとり行われました。

葬儀には、日本総領事をはじめ、日本人会、イスタンブール在住の有志が参列しました。私もその中の一人ですが、奥様と話すことが出来、いち日本人として、航空機2機のうち1機を日本人救出の為に飛ばしてくれたトルコ人として、危険を省みずに志願し、テヘランへと救援機を飛ばしたオルハン・スヨルジュ機長の行為に対して、御礼を述べました。



日本は、自衛隊の海外派遣が当時できないことを理由に、日本航空は、安全が保証できないところには、航空機は飛ばせないと、日本人救出には至りませんでした。危険にさらされ、日本からも救援機が来ない事を確認した、当時の野村イラン駐在大使はトルコのビルレル駐在大使に状況を説明し、助けを求めたところ、「エルトゥールル号の遭難事件の恩は忘れていません。」と救出を快諾してくださいました。

この「恩返し」は、1985年からさかのぼること約100年の1890年、和歌山県串本沖でトルコの軍艦が遭難し、約500人の犠牲者を出したエルトゥールル号の遭難事件での日本人の救援活動・トルコへの送還援助を指しています。現在でも、この日本人の救援活動はトルコの教科書で紹介され、日本人の功績を讃えています。トルコが大の親日国というのも、こういう経緯があるのを知ると納得されると思います。

ふと、思います。同じ状況で日本人だったらどういう対応をしていただろうかと。あれから28年、時が過ぎ去り、この事件の事も知らない日本人が増えつつある中、トルコが日本に対して行った人道的救援は、決して忘れてはなりません。(日本は日本国民を見捨てた中でトルコが日本を助けたんですよ。。500人のトルコ人が飛行機に乗りきれず、陸路でトルコ国境を目指すことになったんです)。日本人が忘れかけている日本人の良さを失ってはならないと。

今、こうしてトルコの地で日々、トルコ人の泥臭い人間模様の中で、時には、悩み苦しみ、それでもトルコ人の大らかさ、温かみに支えられて生きています。今日、こうして縁があり、オルハン機長の葬儀に参列できたことに感謝するとともに、ご冥福を心からお祈りいたします。

楽しい内容ではありませんが、日本とトルコの間を考えると、どうしても今日の葬儀の件に関して、お伝えしたいと思いました。

Emiko Kitayama
2013年2月27日